



大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学
教職支援センター

第136号
2025. 11. 26

3年生の教職志望学生に《こんな先生になりたい》《3年生受験をして・・・》という2つのテーマで原稿募集を行い、その原稿の一部を掲載しました。

3年生に聞きました 《こんな先生になりたい》



《一緒に過ごす中で安心される先生》

教育学部・教育学科 花田 歩夏

私は、子ども一人一人に寄り添い、一緒に過ごす中で安心される先生になりたい。このように考えるきっかけになったのは、小学生の頃の担任の先生の存在だ。その先生は、一人一人の様子の変化に気づき、寄り添ってくださった。そんな先生と過ごしていると安心することができて、学習面以外のことでも相談することができた。安心できる相手だからこそ話せることもあると思うので、私もそのような先生になりたいと考える。

《学びの方向を共に考える先生》

教育学部・教育学科 細川 蒼

私は子どもが自ら学ぼうとする力を大切に、その気づきや疑問に耳を傾けながら学びの方向を共に考える教師になりたい。知識を一方的に与えるのではなく、多様な教育手法を実践し、子どもの探究心を支え、学びの歩みを共にする存在の教師を目指す。変化の激しい時代を生きる子どもたちに対して、自ら考え、行動する能力は不可欠である。その能力の素地を育むとともに、子どもに寄り添い共に成長していく教師を目指していく。

《安心して自分を表現できる学級をつくれる先生》

教育学部・教育学科 岩垣 彩葉

私は、子どもと一緒に笑ったり遊んだりしながら、時には静かに寄り添うこともできる先生になりたいです。私は常に明るく元気なタイプではありませんが、その分、子どもの気持ちの変化に気づきやすいと思います。落ち込んでいる子にはそっと寄り添い、元気が欲しい子には笑顔で支えるなど、状況に合わせて関わることを大切にしたいです。子どもたちが安心して自分を表現できる学級をつくれる先生を目指します。

《笑顔を大切に、温かく信頼される先生》

教育学部・教育学科 間宮 桜凜

私は、子どもたち一人一人の気持ちに寄り添い、安心して自分を表現できるような環境をつくれる先生になりたい。子どもが困っているときにはそっと支え、努力している姿を見逃がさずしっかりと認めることができる存在でありたいと思う。また、学ぶことや人と関わることの楽しさを伝えながら、子どもたちが自分の可能性を信じて前向きに挑戦できるように導きたいと考える。常に笑顔を大切に、温かく信頼される教師を目指す。



《児童に寄り添うことのできる先生》

教育学部・教育学科 宮永 悠生

私は児童に寄り添うことのできる教師になりたい。児童は一人一人得意なこと、苦手なことが異なる。そのため、一通りの教え方や授業の進め方をしてしまうと、苦手な児童にとっては楽しくない授業になってしまう。そうならないために、授業づくりをする時には様々な児童に合わせた教え方を準備することが必要になる。事前準備をしっかりと、誰一人取り残すことのないように、一人一人に寄り添いながら、児童が楽しいと感じることのできるような授業を行いたい。

《何事に対しても全力で向き合う先生》

教育学部・教育学科 加藤 百花

私は何事に対しても全力で向き合う教師になりたい。行事でも、日々の授業や生活の中でも、出来ないことが出来るようになった時には共に喜び、次のステップへの自信へと繋げていきたい。失敗することが続けば、どのように改善し、成功へと繋げていけるのか共に悩みたい。このような経験を重ねていくうちに、児童には諦めない気持ちを持ってほしいと考えている。児童だけでなく、私自身も様々なことに挑戦し全てに全力を尽くす教師になりたい。

《児童が望む道を後ろから支える先生》

教育学部・教育学科 高橋 弘成

私が目指している理想の教師像は「児童が望む道を後ろから支える教師」である。教師側が児童の進む道を作り、先行するのではなく、なるべく児童が望む方向に進んでもらう。その為に私たちが児童のそれぞれの想いや個性、将来の夢について理解し、誤った方に進まないように見守りつつ、助言等の支援を行っていくことを大切にしたい。それを実現させるためにも、現在行なっている小学校ボランティアで多くの児童と交流し、児童理解に努め指導力を高めていくことに力を入れたい。

《「親しみ」のある先生》

文学部・文学科 岡田 さくら

私は、「親しみ」のある先生になりたいと考えています。生徒にとって、話しかけやすい存在であることは非常に大切であると思います。学校生活に限らず、個人が抱えている悩みや、何気ない話ができるコミュニケーションの場を作るために、まずは自分が親しみやすい存在になることが必要だと思います。積極的に他者と関わり、多様な価値観に触れ、物事を多角的にみることで、親しみのある先生を目指します。

《児童に心から寄り添える先生》

教育学部・教育学科 篠岡 和

私は、児童に心から寄り添える先生になりたい。なぜなら、「知識を教える」だけでなく「児童の生活に深く関わっていく」ことに先生としての意義があると思うからだ。知識を教えるだけであれば、AIや塾の方が優れているだろう。しかし、児童自身が親とは違う身近な大人に触れ、社会を経験していくことに意味がある。そういった児童に対して、愛情をもって接し児童の気持ちを大切にすることを先生としてあたり前であり、一番大切なことだと感じる。



《主体的な取組に関して積極的に後押しできる先生》 教育学部・教育学科 中橋 和紀

私は現在、教育系の一般社団法人で学生や教員とともに活動している。その活動の中で学校内のルールなどを生徒の話合いによって決めている学校があることを知った。これがまさに生徒主体の学校づくりではないかと思った。今後、このような学校が増えてほしいと考え、私は生徒の素朴な疑問や意見に耳を傾け、生徒の主体的な取組に関して積極的に後押しできるような教員になりたいと考えている。

《一人一人を思いやり安心感を与えられる先生》 教育学部・教育学科 野根 隆

私は一人一人を思いやり、安心感を与えられる先生になりたい。なぜなら児童が本当に困った時に自分の思いや考えを引き出させたいからだ。失敗を恐れず挑戦できるように励まし、温かいまなざしで成長を見守る存在を目指す。また児童同士でも認め合う関係を育みたい。このようにして良い学級を作れる先生になりたい。あともう一つ大事にしたいことは、この先生で良かったなと心に残れるような先生になりたいと思っている。

《この先生でよかったと思ってもらえるような先生》 教育学部・教育学科 横山 杏純

私は子どもたち一人一人と向き合い、寄り添えるような教師を目指します。子どもたちと過ごす毎日の時間の中で一緒に勉強したり、全力で行事に取り組んだりしたいと思っています。一緒に取り組むことで、苦手意識をもつ子どもにも寄り添い誰一人取り残さないような学級をつくりたいです。また、普段から子どもたちとコミュニケーションをとり、子どもたちも私も楽しめるようにしていきたいです。この先生でよかったと思ってもらえるような教師になりたいです。

《全力でぶつかり合い、喜怒哀楽を共感できる先生》 教育学部・教育学科 鈴木 獅王

児童と全力でぶつかり合い、喜怒哀楽を共感できる教師になりたい。児童と一緒に喜んだり悔しがったりする教師になることで、信頼関係を築けるようになると思う。様々なトラブルが起こり得る教育環境で、自分の価値観を押し付けるのではなく、児童に寄り添うことを大事にしたい。「明日も学校に行きたい」と心から感じられる毎日を創れる教師を目指したい。

《誰一人児童を取り残さない先生》 教育学部・教育学科 住吉谷 りこ

私は誰一人児童を取り残さない先生になりたい。児童一人一人が持つ力を最大限に発揮できる環境をつくらうと思ったら、まずは児童の持つ力を把握し、向き合うことが大切と考える。そうすると、一人一人に合った指導、支援だけでなく、日常生活の中での悩みにも寄り添うことができると考えられる。児童全員が、学校という限られた空間の中で、自分の将来につながるような経験ができる環境をつくれる先生になりたいと考えている。



《努力を怠らず、高みを目指し続ける先生》

教育学部・教育学科 梅尾 古都

私の理想の教師は、悩んでいる子どもと向き合うのは勿論、学校が楽しいと思っている子どもがそのままの気持ちで過ごせるような温かい環境をつくる教師です。一人一人の思いや個性を大切に、安心して自分を表現できる場を創りたいです。そして、子どもと全力で向き合い時にはぶつかり合いながら一緒に悩み、成長していけるような存在でありたいです。努力を怠らず、さらに上へと高みを目指し続けられるような教師でありたいです。

《信頼され、尊敬される先生》

文学部・歴史学科 小澤 侑二郎

私は、教員として生徒から信頼され、そして人として尊敬される教師になりたいです。日々の授業だけでなく、日常生活のあらゆる場面でも誠実に行動することで、「こんな人になりたい」と生徒が感じてくれるような人間性を持った教師になりたいです。先生と生徒という立場の上で教えるのではなく、一人の人間と人間の関係性の中で、生徒に大人としてのあるべき姿を伝えたいと考えています。そして、生徒が卒業するときに、「この人に出会えて良かった」と思ってもらえるような教師を目指して努力していきます。

《音楽を通して子どもたちの心に寄り添える先生》

教育学部・教育学科 川副 瑞季

私は、音楽を通して子どもたちの心に寄り添える教師になりたい。幼少期からピアノを続けてきた中で、音楽が人の感情を豊かにし、気持ちを表現する力を育むことを実感した。授業や日常の中で音楽の力を活かし、自分の思いを素直に表せる温かなクラスづくりを目指したい。一人一人の個性を大切にしながら、みんなが笑顔で学び合う明るい学級をつくっていききたい。

《メリハリのある先生》

教育学部・教育学科 小林 心優

私は、小学校の時の恩師のようにメリハリのある先生になりたいです。授業中は真剣に取り組ませ、休み時間には一緒に笑ってくれるその姿に、子どもながらに信頼と尊敬の気持ちを抱いていました。私も、子どもたちにとって安心できる存在でありながら、学ぶ時はしっかり導くことができる、そんなメリハリのある先生を目指して頑張っていきたいと思っています。



3年生の教職志望学生の文章を読んで、どのように感じましたか。それぞれが教職についてしっかりと自分の考えをもち、日々努力を重ねていることが伝わってきますね。仲間と切磋琢磨することで、さらに力量が高まると考えます。継続は力なり！一日一日を大切に夢が実現できるように頑張っていきましょう。



3年生に聞きました << 3年生受験をして・・・ >>

《受験生一人一人本気で臨んでいることが伝わった》 教育学部・教育学科 伊関 凜太

私が3年生受験をしたのは、4年生でいきなり本番となるのを避けるためでした。4年生では別の自治体の教員採用試験を受ける予定で、3年生では地元で採用試験を受けました。私自身は、練習のつもりで試験を受けていましたが、周りの受験生の雰囲気は、全く異なっていました。試験が終わって一番に聞こえてきたのは次のような言葉でした。「今年これだけ勉強して落ちたら来年はもっと勉強しなあかん」というものでした。受験生一人一人が本気で臨んでいることが伝わってきて気が引き締められました。

《やってきたことを信じて》 教育学部・教育学科 柳生 友

私は、教員採用試験の雰囲気や問題の傾向を知りたいと考え、3年生受験を決意しました。一人一人に合う勉強法があると思いますが、過去問を多く解いておくことで、本番でも落ち着いて問題が解けるのでお勧めします。本番では緊張感があり、やりにくい雰囲気だと思いますが、やってきたことを信じれば必ず合格できると思います。しっかり準備をして臨んでください。応援しています。

《教師になることへの熱意が高まる》 教育学部・教育学科 南 愛華

3年生受験をしようと思ったのは2年生の夏でした。地元の先輩に「私は受けなかったけど、受けた方が良いよ」とアドバイスをもらい、受験しよう決めました。何から勉強したら良いのか分からず、問題集を進めていましたが、過去問をするべきだと小学校の先生にアドバイスをいただき、ひたすら過去問を解き、特徴をつかむことにしました。当日あまり自信はなかったですが、周りにいた人が全員教師を目指しているのだと思うと、より教師になることへの熱意が高まったと感じています。

《対策はとても大事》 教育学部・教育学科 後藤 佑太

今回3年生受験をして、対策はとても大事だと思いました。筆記の方は自信がなかったので、対策はしっかりしました。ですが範囲がとても広がったため、動画で高校受験の内容をおさえました。その成果もあって教職教養と専門教養の方は受けることができました。面接は対策をしていませんでしたが、自分の思いや熱意を話しました。小論文は対策しないと本当に無理だと思いました。4回生になるまで時間があるので、しっかり対策していこうと思います。



《問題に何度も取り組む》

教育学部・教育学科 種 咲陽

私は地元に近い自治体の3年生受験をしました。そこでは、教職教養と思考力・判断力を問う問題が5割ずつ出題される形式になっていました。教職教養に関しては、大学の履修カルテで行う模試にしっかりと取り組んでいたこともあり、過去問で合格点をとれていました。思考力・判断力を問う問題に関しては経験不足もあり、はじめは点数が上がらなかったのですが、問題に何度も取り組むことで合格点に達しました。

《教師になりたい気持ちや、やる気が一層高まる》

教育学部・教育学科 浦井 菜々子

私は3年生受験をして良かったです。合否に関わらず会場の雰囲気や試験内容を知ることができたからです。また、たくさんの受験生がおり私と同じ夢を抱いている人たち（ライバル）に会うことができ、私自身合格してもしなくてももっと努力しないと、と強く感じました。教師になりたいという気持ちや、やる気が一層高まりました。試験対策としては、過去問の5年分をほぼ満点がとれるくらいになるまでくり返して行いました。参考書は、常に鞆に入れるようにし、通学中や空き時間に見ることができるようになっていました。試験を受けてまだまだ理解できていない部分があったので、二次試験の為に勉強を続けたいと思います。

《勉強はチーム戦》

文学部・歴史学科 平野 太陽

3つの自治体を受験するために半年間教員採用試験勉強をした経験から、計画の重要性と環境の大切さを痛感した。もともと計画を立てることが得意ではなかったが、友人や教職アドバイザーの先生と協力して、〇日までに参考書を終わらせるために一日〇ページは必ず進めるなど具体的な計画を立てた。またこの計画に加えて、互いの一日のタスクを報告し合った。具体的な計画やライバルと勉強の進捗状況を報告し合う緊張感により、半年間という長い期間勉強できた。

＝採用試験情報＝

教職アドバイザーから

【一次試験の日程】一次試験の日程が順次公表されています → 早目の準備が必要！
日程に合わせて、早目に採用試験対策を開始することが大切です。出願日程にも注意しましょう。

◇来年度 一次試験開始の日程 ※11月10日現在で発表されている自治体
(校種により別日の場合・複数日実施の場合があります。)

- 5月 9・10日 山口県
- 10日 長崎県
- 6月 13日 岐阜県・愛知県・名古屋市・三重県
- 14日 北海道・札幌市・鹿児島県
- 7月 4日 岡山県・岡山市
- 5日 埼玉県・さいたま市・東京都・神奈川県・横浜市
- 11日 青森県・岩手県・宮城県・仙台市・広島県・広島市
- 12日 福岡県・福岡市・北九州市

採用選考試験まで半年ほどです。
計画的に対策を進めましょう！

